

ダーウィンの年譜 ショパンの年譜

2010.3.26 喜多村 作成

年	歳	ダーウィン項目	科学史項目	ショパンとポーランド項目	歳
1809	0	シュルーズベリーにて生誕	ラマルク『動物哲学』発表		
1810	1		スコット『湖上の美人』	ジェラソラヴォアにて生誕	0
1811	2		アボガドロ『分子説』発表		1
1812	3		米英戦争勃発		2
1813	4		オーウェン『社会に対する新見解』		3
1814	5		スチヴンソン: 蒸気機関車		4
1815	6		ワーテルローの戦い		5
1816	7	姉(9歳上)から教育を受ける	フレネル『光の干渉実験』	ヴォイチェフ・ジヴニーの指導を受ける	6
1817	8		カト『経済学及び課税原理』	ジヴニーよりピアノを習得「ボロネースト短調」作曲	7
1818	9	ユニテリアン派学校に入学	テナール: 過酸化水素の発見	ワルシャワで初の公開演奏	8
1819	10	パブリックスクール入学	大西洋汽船初航海		9
1820	11		エルステット『電流の磁気作用』		10
1821	12		ミル『経済学綱要』		11
1822	13		ボンズレ『射影幾何学』	ユセフ・エルズネルに対位法、和声学を学ぶ	12
1823	14		ブラウン『実用的ガス機関』		13
1824	15		カルノーサイクル(熱力学)		14
1825	16	エジンバラ大学入学	ファラデー: ベンゼン発見		15
1826	17	プリニウス協会入会	アベルの定理: 無限級数収束	ワルシャワ音楽院に入学	16
1827	18	ケンブリッジ大学入学	ブラウン運動の発見	ノクターン第19番作曲	17
1828	19		コリオリの力の提唱	ベルリンに滞在	18
1829	20		カトリック教徒解放令	ワルシャワ音楽院を首席で卒業	19
1830	21		ライエル『地質学原理』	ウィーンに到着 十一月蜂起 ノクターン20番作	20
1831	22		ファラデー: 電磁誘導電流発見	ノクターン第1番～第5番作曲	21
1832	23	ビーグル号乗船	ヘンリー: 自己誘導現象発見	パリで初の演奏会	22
1833	24		ファラデー: 電気分解の法則	ノクターン第6番作曲	23
1834	25		レンツの誘導電流の法則		24
1835	26		アンデルセン『即興詩人』	ウヅィンスキ伯爵家マリアに「別れのワルツ」献呈	25
1836	27	火山観察 チリ大地震	ヒューウェル: 潮汐の理論	ノクターン第7・8番作曲 マリアに求婚	26
1837	28	オーストラリアで有袋類観察	ファラデー: 電磁場理論の基礎	婚約破棄される ノクターン第9・10番作曲	27
1838	29	地質学会事務局局長就任	シュライデン: 細胞説(植物)	ヨルジュ・サントと交際 ノクターン第11番作曲	28
1839	30	エマ・ウェッジウッドと結婚	シュヴァン: 細胞説の確立	ノクターン第12番作曲	29
1840	31		ジュール: 電流の熱作用法則		30
1841	32		ガウス: 幾何光学理論	ノクターン第13・14番作曲	31
1842	33	進化論草稿(35P)	マイヤー: エネルギー保存の法則		32
1843	34		ジュール: 熱の仕事量の測定	ノクターン第15・16番作曲	33
1844	35	『種の起源』試論(200P)	モース電信機実用化		34
1845	36		ファラデー効果: 反磁性体発見		35
1846	37	『南米の地質』出版	モール: 原形質の概念	ノクターン第17・18番作曲	36
1847	38		ヘルムホルツ『力の保存について』	ヨルジュ・サントと別れる	37
1848	39		ケルヴィン: 絶対温度の概念確立	パリで最後の演奏会 英王ヴィクトリア女王へ	38
1849	40		フィゾー: 光速度の測定	パリで死去	39
1850	41		フーコー: 光の横波説の実験確認	(ノクターン第21番作曲年不詳)	
1851	42	『フジツボ類の研究』出版	フーコー: 振子で地球自転証明		
1852	43		フランクランド: 原子価の概念		
1853	44	王認学会よりロイヤルメダル賞	ヒッパルス: 電解質イオンの易動度		
1854	45		ジュール・トムソン効果		
1855	46		フーコー: 渦電流の発見		
1856	47		ルヴェリエ: 天気図での天気予報	一月蜂起が勃発	
1857	48		バスタード: 発酵作用微生物論		
1858	49	自然選択説	ウオーレス: 自然選択説		
1859	50	『種の起源』脱稿および出版	キルヒホフ: 黒体概念		
1860	51		マクスウェル: 気体分子速度分布		
1861	52		シュルツェ: 原形質説		
1862	53	論文「サクラソウの異型の花」	ユゴー『レ・ミゼラブル』		
1863	54		ハクスリー『自然界の人類地位』		
1864	55		マクスウェル電磁場の基礎方程式		
1865	56		メンデル: 遺伝法則の発見		
1866	57		ヘッケル: 個体発生の反復説		
1867	58		トラウベ: 浸透圧の発見		
1868	59		ヘッケル『自然創造史』		
1869	60		メンデレーエフ: 元素の周期律発見		
1870	61		マイヤー: 元素の周期性: 発表		
1871	62	『種の起源』改訂「進化」初出	マクスウェル: 光の電磁波説	対カトリック教徒ビスマルクの文化闘争始まる	
1872	63	『人間および動物の表情』出版	チャレンジャー号の海洋探検		
1873	64		マクスウェル『電磁気学概論』		
1874	65		ヘッケル『人間創成史』		
1875	66	『食虫植物』出版	マクスウェル: 比熱の分子論研究		
1876	67		ギッパス: 化学ポテンシャル		
1877	68		ホルツマン: 熱力学第2法則;		
1878	69		マイケルソン: 光速度の精密測定		
1879	70		ファーブル『昆虫記』		
1880	71	『植物における運動能力』出版	キュリー: ビエツ圧電気の法則		
1881	72		マイケルソン・モーリーの実験		
1882	73	ダウ村にて死去	ヘルムホルツ: 自由エネルギーの概念		